

(a)と(p)を区別すべきですが、この区別の基準を明記していないこともあって世界的にも(d)で押し通しているグループもあります。前述のように活動と参加の定義を個人として生きていくことと、社会の中で生きていく事に分けて考えると(a)と(p)の区別はある程度共通認識を形成できると思います。特に我が国のように多くの国民が比較的似た生活を営んでいる場合、個人生活と社会生活との区別に共通認識を設定する事もそれほど難しくありません。しかし生活様式・習慣・文化の異なる人々が混在している国では個人生活の範囲と社会生活の範囲がグループごとに異なりますので非常に難しい問題をはらんでいることも事実です。

ICF 本来の定義である「活動とは、課題や行為の個人による遂行の事である。参加とは、生活・人生場面 (life situation) への関わりの事である」を無視して「個人として生きていくことと社会の中で生きていくこと」の区別を導入しようとしている意図を説明します。個人による遂行と個人として生きていくこととは(d)の第1章から第3章と第9章では同じ分類になります。しかし第4章から第8章では少しずれが生じます。例えば歩行 d450 は、ICF 本来の定義であれば(a)になるはずですが、短距離歩行は個人として生きてく範囲なので a4500、長距離歩行や様々な地面や床面上での歩行は p4501、p4502 と考えてみてはいかがかという提案です。例えばトイレへ行くのに必ず家族に支えてもらって歩いている人は最近1人で歩いた事がないので a4500.2929 となりますが、課題の個人による遂行という定義からは少し気持ち悪さを感じます。また介護から考えるときに(a)とマークされた項目と(p)とマークされた項目と分けておくことが有効になると思います。もっとも a4501(a)と(p)を使わずに pPrivate (r)と Social (s)とした方が良いのかもしれない。

ICF:d 活動と参加

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習と知識の応用 2. 一般的な課題と要求 3. コミュニケーション 4. 運動・移動 5. セルフケア 6. 家庭生活 7. 対人関係 8. 主要な生活領域 9. コミュニティ・社会・市民生活 | <ul style="list-style-type: none"> • 4分野で評価 <ul style="list-style-type: none"> - 実行状況の評価 - 支援(物・人)がない場合の能力評価 - 支援ありでの能力評価(任意) - 支援なしでの実行評価(任意) • a活動と、p参加を区別 • 実行状況は現在の環境で本人が活用できている状況を基に評価する |
|--|---|

実行状況	非支援の能力	支援時の能力	支援なしの実行
0 困難なし	0 困難なし	0 困難なし	0 困難なし
1 軽度の困難	1 軽度の困難	1 軽度の困難	1 軽度の困難
2 中等度の困難	2 中等度の困難	2 中等度の困難	2 中等度の困難
3 重度の困難	3 重度の困難	3 重度の困難	3 重度の困難
4 完全な困難	4 完全な困難	4 完全な困難	4 完全な困難
8 詳細不明	8 詳細不明	8 詳細不明	8 詳細不明
9 非該当	9 非該当	9 非該当	9 非該当

環境因子(e)と個人因子

ICF の理念図では環境因子(e)と個人因子という項目もあります。人間の生活に必要な事項は環境によって大きく異なります。疾病の中には環境とかかわりの大きいものが数多くあります。環境による健康被害だけではなく、生活習慣の改善が必要な疾病もありますし、環境を理解しないと診断が難しい疾病もあります。従って医療においても環境因子の評価が重要です。環境因子の評価では促進因子であるか、阻害因子であるか、という評価を行う事になっています。一方個人因子は社会や文化による多様性が大きいという理由で項目は決めずに利用者の目的や所属する社会に応じて自由に記載して良いということになっています。

環境因子として設定されているのは 5 項目です。それぞれの因子を阻害因子として記載することも、促進因子として記載することもできます。例えばスギ花粉による喘息患者さんが転地して症状が良くなっている場合は自然地理 e210 が健康への促進因子ですので e210+2 となります。一方これまで何ともなかった人がスギの多い地域に引っ越してきて症状が出た場合は植物 e2200 を用いて e2200.2 となります。花粉のありなしで同じコードを使いたい場合は e210.2(スギ花粉)でも良いかもしれませんが、e210+2(スギ花粉なし)も、e2200+2(スギ花粉なし)もおかしい感じがします。一般的に分類しようとする存在しない事をコード化するのは難しいのです。

患者さんと家族の一員との関係で、良い関係によって患者さんにとってプラスであるという事を表現したい場合は家族 e310+4 となり、ちょっとうまくいっていない場合は e310.1 となります。生活の支援、QOL を考える場合には特に 3 章支援と関係、4 章態度が重要になります。ICF そのままでは家族の中の誰と、と言う事を表現できませんので長女の花子さんが患者さんにとって良い関係にある場合は e310+4 (長女：花子) といった具合に「誰が」を表現することが必要になります。

患者さんや患者さんにかかわる人たちの家族の気持ちは ICF のコード化された部分だけではうまく表現できません。血縁関係を記したジェノグラム、あるいはその周りの近しい人を含めたエコマップの中に関係性を記載すると大変直感的で良い方法です。好意をもっている、支配的である、依存的である、無関心である、反感をもっている、などの関係性は患者さんの生活を考えるときにとても重要な情報です。これらの情報を個人因子として記載しておくこともとても良い方法です。一方患者さんの気持ちはともかく、家族の患者さんに対する思いを個人因子に書く事に抵抗を感じる方もいるでしょう。またこのような感情的な事項は、表面的に見える部分と、なかなかうかがい知ることは困難な隠れた部分とがあり、評価する人と対象となる人との関係性によっては誤解してしまう事もあるので生活機能を中心とした ICF とは別次元の事として記載すべきだという考え方もあります。どのような記載方法を取るのかは ICF による評価を一緒に使っていこうとする人たちと十分に打ち合わせてください。

ICF:e 環境因子

1. 生産品と用具
 2. 自然環境と人的環境
 3. 支援と関係
 4. 態度
 5. サービス・制度・政策
- 障害因子と促進因子を考える
 - 障害因子は. で表現
 - 促進因子は+ で表現
 - 第2評価点はない
 - 評価スケールは他と同様

障害因子(. で表現)	促進因子(+ で表現)
.0 障害因子なし	+0 促進因子なし
.1 軽度の障害因子	+1 軽度の促進因子
.2 中等度の障害因子	+2 中等度の促進因子
.3 重度の障害因子	+3 重度の促進因子
.4 完全な障害因子	+4 完全な促進因子
.8 詳細不明の障害因子	+8 詳細不明の促進因子
.9 非該当	

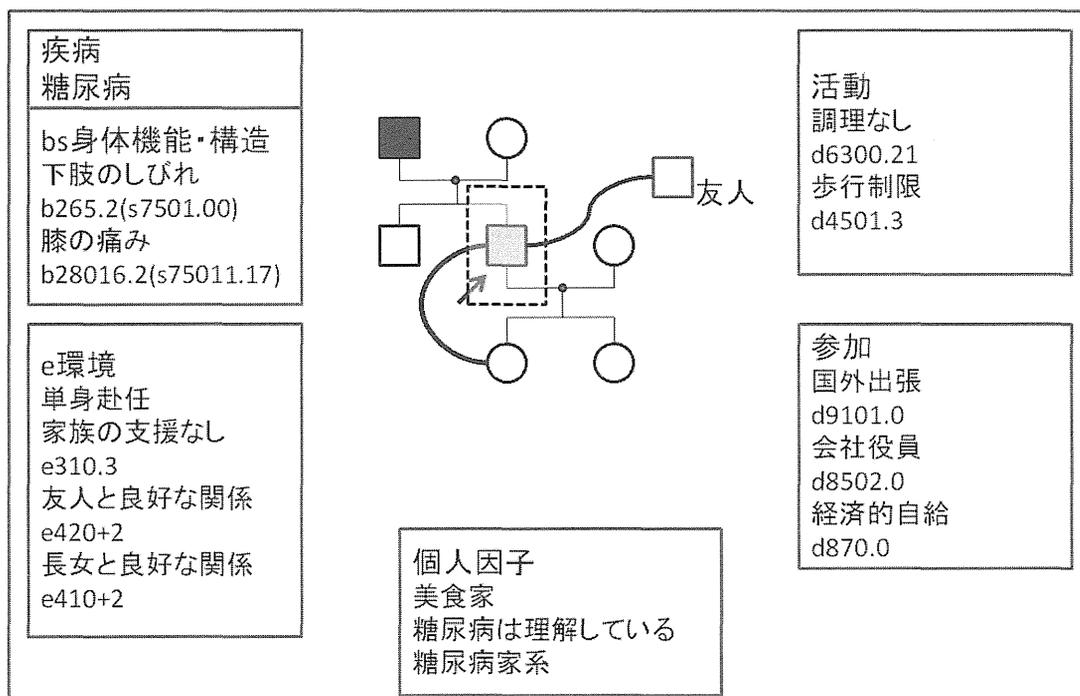
ICF の活用

個人の現状理解としての活用

診療にあたって患者の生活全体をとらえず、心身機能や身体構造、あるいは疾病の原因だけに目を奪われてしまうと患者不在の医療となってしまうかねません。試みにご自分で患者さんの状況について ICF を用いて表現してみてください。b,s,d,e の配分はどのようになっているのでしょうか。全然コード化されない分野があったのでしょうか。職種によってご自分では使用しない分野があることもやむを得ないのですが、その分野の視点を補ってくれる方と協働で患者さんを診ていく必要があります。そして自分ではコードを使わなくても常に ICF の理念図を頭において、患者さんを包括的に理解する努力が必要です。

糖尿病患者で、東京に単身赴任中の A さんの生活状況について ICF とエコグラムを用いて表現してみました。経口糖尿病薬にて治療中です。糖尿病家系で糖尿病については十分理解していますが、元来美食家で自炊は全く行わず、食事療法はうまくいっているとはいえません。会社役員で国外出張も多く社会への参加は非常に積極的にこなしています。会社役員であり、経済的には何の問題もありません。家族との関係は長女と非常に良好な関係にあり、海外出張時に連れて行ったりもしています。普段の生活では学生時代の友人と大変良い関係にあります。

Aさんの健康

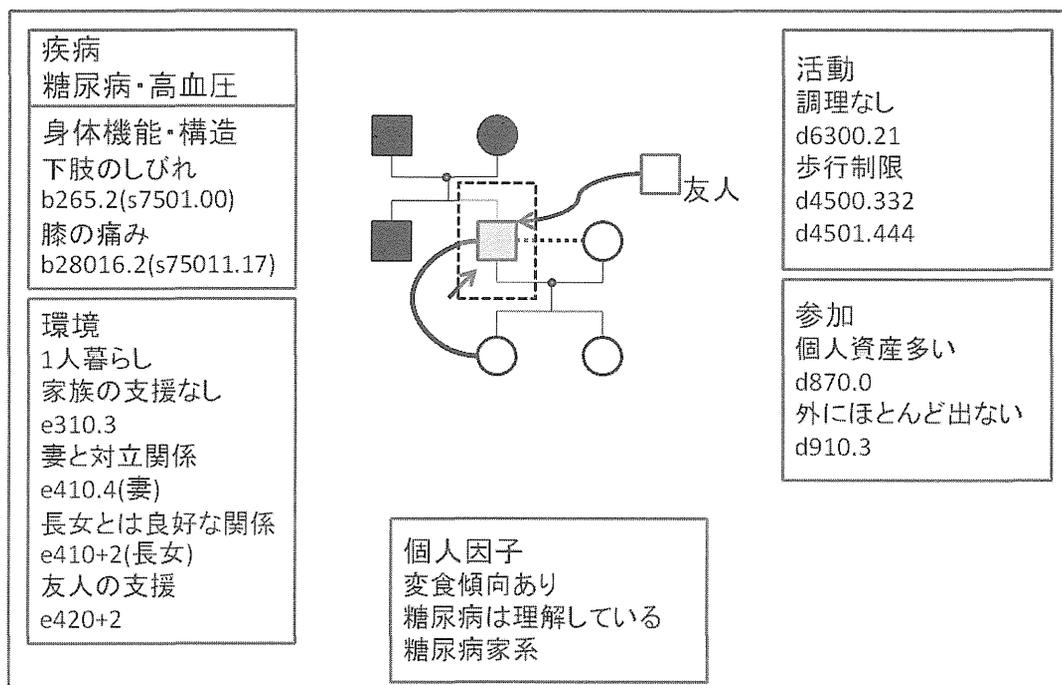


ICF の理念図に沿った記載の例。良い関係性については太い実線で示している。

20年後の A さんは会社を退職しましたが、妻とはうまくいかず、そのまま 1 人暮らしを

続けています。長女とは良好な関係を保っています。友人との関係は良好であり、買い物を届けてくれるなど支援も行ってきています。Aさんの健康状態は糖尿病が進行し、インスリン治療となっています。また高血圧も進行して治療中です。歩行制限はさらに進行し、屋内での移動も辛くなっています。このため外出はできなくなり、美食は不可能となりコミュニティライフには非常に消極的になっています。食生活では変食傾向が強くなっています。

Aさんの健康(20年後)



図中で対立的関係性は太線の点線で示しています。支援関係は矢印です。

Aさんの例でもわかるようにICFで記載できるわけではありません。また無理をすれば記載できるが、じっくりこないという項目も多数あります。そのような制限の中で、どうすればできるだけすべての項目をコード化できるのか、ということが重要な事だろうと考えます。

個人の経過理解としての活用

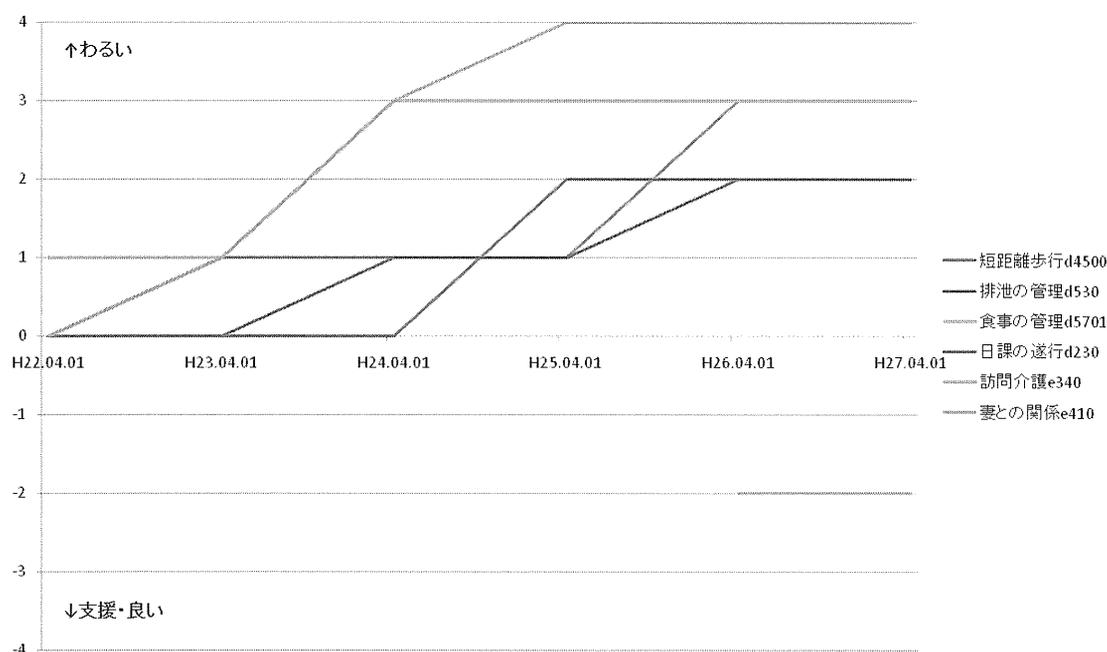
ICFは個人の生活機能(あるいは状態)を記載できますので、診療の開始時だけでなくその後も定期的に、あるいは病状に変化があったとき、家族に変化があったときなど繰り返しICFで評価すると生活機能の変化が良くわかります。小児・若年者向けの項目を追加したICF-CY(Child and Youth、日本語版は一児童版-)というものも2007年から使用できるようになりましたので生涯にわたってICFで個人の生活を評価するという事も可能になりました。先ほどあげましたAさんの例は20年間で2枚の評価表ですが、もう少し細かく、

例えば1年単位などで示すと、Aさんの健康がどのように変化したかを雄弁に語るツールとなります。訪問介護による支援、人間関係の変化なども表現可能になります。

医療従事者が患者さんの経過を理解するためにICFを使うことのメリットは、機能低下の進行や、環境の変化などをとらえやすくなる事です。評価点を用いることによって病状の進行の様子をダイナミックに示す事が出来ます。特に慢性疾患では変化が穏やかであるために日々の変化をとらえにくくなる傾向があります。一月に1回などのタイミングを決めて再評価していくと経過をとらえやすくなります。

慢性疾患を繰り返し評価していく事を多くの患者さんに対して行えば、治療方法や指導方法による経過の差を表現できます。また健康状況の推移から支援や医療提供のタイミングの評価も可能となります。

Aさんの健康の推移



集団の傾向としての活用

ICFには個人を対象とした使い方以外にも、地域の人々を調べて社会としての評価に使う事もできます。様々な施策がどのような効果を上げているか、社会のニーズはどこにあるのか、といった社会の質(Social Quality)を評価しようという試みがあります。公共サービスの充実度や社会の中での障害者の割合、支援を要する人の割合、障害を持ちながら社会生活を送っている人の割合などは社会の質を判断する指標となります。ICFは生活機能を環境まで含めて様々な角度から測定できるように設計されていますから、社会の質を判断する良いツールとなります。さらに国際的なフィールドテストも行っていますので、国

家格差や地域格差を見たり、施策の効果を測定したりする事が出来ます。使用する上での注意点としては、項目の選び方によっては一面的なとらえ方となって判断を誤る（あるいは恣意的な要素が加わる）場合があります。このため現在 WHO が作成中の ICF 倫理規定では理念図に従って各因子をバランスよく含めて総合的に判断できるように計画することを強く求めています。また ICF からバランス良く項目を抽出した WHO-DAS II というアンケートもありますので、そちらの利用もご検討ください。

ICFを用いた病態評価

千葉大学医学部附属病院
地域医療連携部
藤田伸輔

平成22年度厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業))
ICFを用いた慢性疾患病状推移統計システムの構築
(H22-統計-一般-003)

Hamamatsu

Nov 21, 2010

はじめに

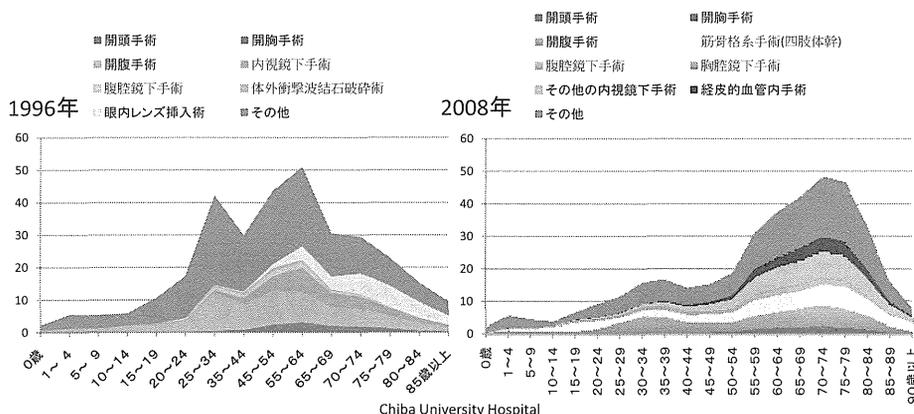
- 感染症から慢性疾患へ
 - 20世紀後半に至るまでは感染症コントロールの時代
 - 20世紀末からは慢性疾患コントロールの時代
 - 言い換えれば短期予後から長期予後の時代へ
- 慢性疾患と生きる時代
 - 高血圧・虚血性心疾患・糖尿病等のコントロールが重要
 - これらの患者はその後の人生をずっと疾病と共に暮らす
 - 人口の高齢化はこのような人々を増加させる
- 予後の評価
 - 慢性疾患のコントロールには予後情報が必要
 - スクリーニングによる早期発見が重要
 - 罹患率は単に患者数を示すだけ
 - 慢性疾患は複数臓器に様々なタイミングで影響する
 - **慢性疾患のステージングは可能ですか？**

医療のパラダイムシフト

- 現代医療は生命を救うことを目指してきた
- 医療の専門分化 ⇒ チーム医療の重視
- 20世紀後半からQOL医療に代わってきた
- 寿命は延びたが死者数は増加し始めた
- 多職種チームでは目的がバラバラになる

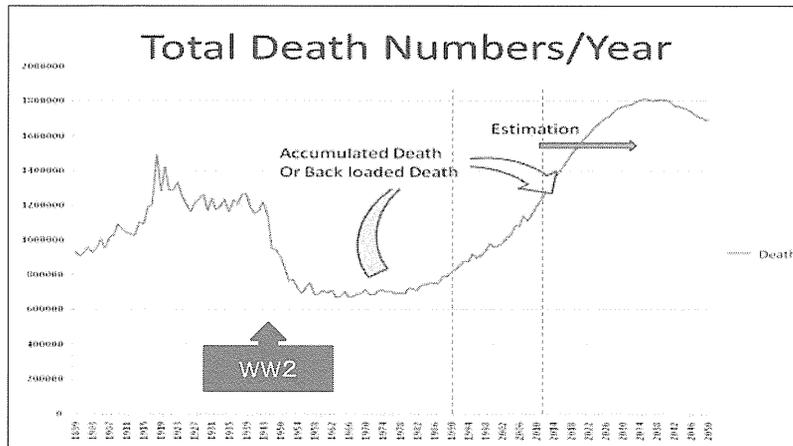
手術患者の高齢化 (ADL獲得手術)

- 12年間に手術患者は急速に高齢化している
- 胃潰瘍手術や胆石症手術は確実に減少した
- 内視鏡下手術は高齢者の手術を容易にした
- 高齢化に伴い関節手術・骨折手術・眼科手術が急増している



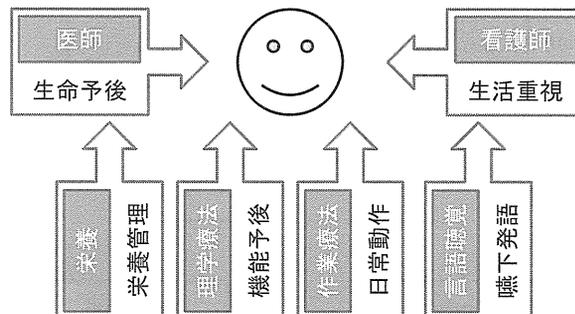
死亡者数の増加

- 1990年ごろから死亡者数が急増中
- 死を見つめることが必要



多職種協働

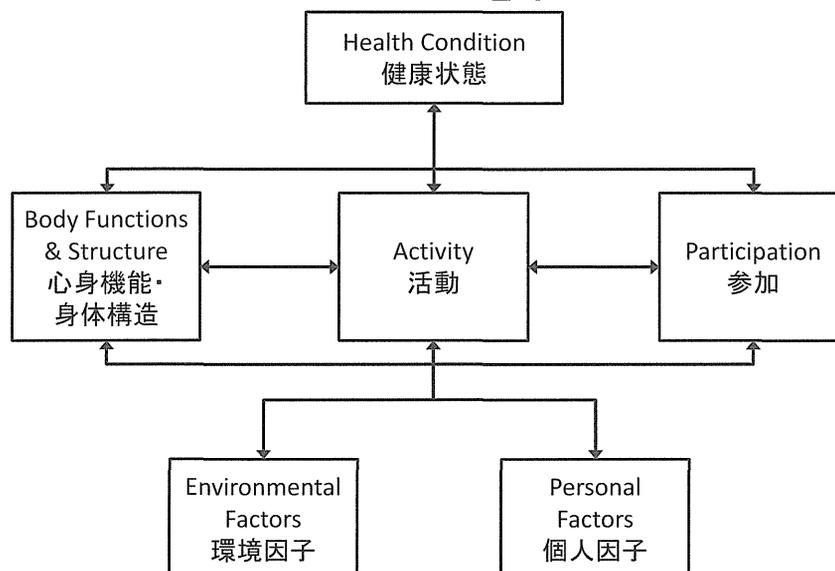
- 患者中心とは言うけれど、目的は様々
- 目的が異なるチーム医療はありえるのか？



QOLを目的とする医療へ

- 生命予後はQOLの一部である
- 病態をQOLの観点から評価する
- QOLの統一指標が必要 ⇒ICFの導入
- 病態をQOLに分解
- 多因子を扱う方法論が必要

ICFの理念図



退院時の患者評価(予備研究)

- 高齢社会での社会生活上の問題点
 - ADLの低下
 - 社会での役割
 - 収入
 - 家族や隣人とのかかわり
- 入院＝社会生活の中断
 - 生活環境の変化
- 生活環境を図示するためにエコマップを使用
- エコマップをICF化してみた

症例:67歳。女性。(予備研究)

- 既往症:糖尿病
- 現病歴:
 - 7月10日脳梗塞発症のため救急車にて来院。
 - 入院時は意識100
 - 右片麻痺を残して回復:
 - b7302右側筋力低下
 - b7352右側筋緊張亢進
 - →b16711書字能力低下
 - d170書くこと
 - d410-499移動
 - d510-599セルフケア
 - d630-649家事
- 家庭:
 - 義母(88歳)認知症、介護中d660
 - 夫(68歳)高血圧、肺がん術後2年目
 - 娘(44歳)既婚、札幌
 - 息子(42歳)独身、同居:食事の準備・洗濯d660?
 - 娘(37歳)既婚、東京
 - 実母(90歳)独居、生活が心配・少し認知症
- 生活:
 - 自宅:一軒家・2階建て・広い・段差多い・買い物遠い(自転車10分)
 - 自室は2階、トイレ・風呂は1階
- 収入:年金
- 支援:介護保険申請中 e5700
身体障害申請予定 e5700
- 楽しみ:畑・生け花

エコマップ 67歳。女性。(予備研究)

身体状況

E115 2型糖尿病性動脈硬化症
I693 脳梗塞後の片麻痺(右)
b7302.3 身体の片側筋力(右)
FIM-A.6 d550.2 食べること
FIM-B.6 d520.2 身体各部の手入れ
FIM-C.6 d510.2 身体を洗うこと
FIM-D.6 d540.2 更衣
FIM-E.6
FIM-M.4 d4551.3 階段昇降
d630.2 調理
d640.3 調理以外の家事

暮らし

e5700 年金生活
e5700 介護保険申請中
e5700 身体障害申請予定

役割

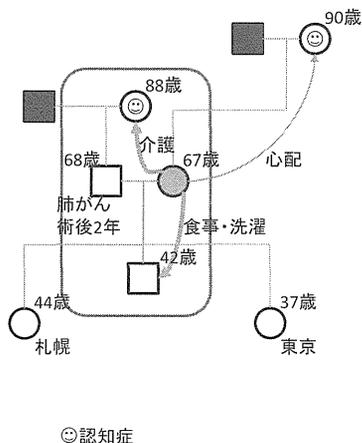
家事
義母の介護

生活環境

自宅
一軒家2階建
段差多い
自室は2階
浴室・トイレ1階

趣味・生き甲斐

畑仕事
生け花



症例:75歳。男性。

- 既往症: 高血圧。
- 現病歴: 平成19年9月13日。上顎癌にて手術。左眼球摘出。
 - s220眼球の構造
 - s3202口蓋の構造
 - s330咽頭の構造
 - b210視覚機能
 - b3101音声の質
 - b320構音機能
 - b51050口腔内嚥下
- 嚥下訓練、発音訓練にてADL回復し平成20年1月25日軽快退院。
- 平成20年4月7日腰椎転移にて再入院。痛みのために歩行困難。
 - L03背部(腰部)の痛み
 - d4103座ること
 - d4104立つこと
 - d4500短距離歩行
- 家庭:
 - 妻(68歳)
 - 息子(45歳)既婚、九州
- 生活:
 - 自宅: マンション・1階
 - 広い
 - 段差少ない
 - トイレ・風呂は手すり付き
- 収入: 年金
- 支援
 - 介護保険使用中e5700
 - 介護保険認定変更の申請e5700
- 楽しみ: 囲碁・畑

エコマップ 75歳。男性。

身体状況

I10 本態性高血圧

C310 上顎癌

上顎癌手術 H19.09.13

s220.5 眼球の構造(左)

s3202.3 口蓋の構造

s330.3 咽頭の構造

b210.5 視覚機能

b3101.2 音声の質

b320.2 構音機能

b51050.2 口腔内嚙下

C795 腰椎転移

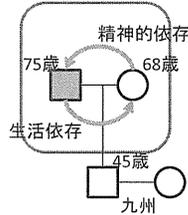
L03 背部(腰部)の痛み

d4103.2 座ること

d4104.3 立つこと

FIM-L.3

d4500.4 短距離歩行



暮らし

e5700 年金生活

e5700 介護保険使用中

e5700 介護保険認定変更申請

生活環境

自宅

マンションの1階

段差少ない

浴室・トイレ手すり付き

浴室・トイレ1階

趣味・生き甲斐

畑仕事

囲碁

自宅での生活に重要な項目

D 活動と参加	知識の応用	d163思考
		d175問題解決
		d177意思決定
	一般的な課題と要求	d220日課の遂行
	コミュニケーション	d310話し言葉の理解
	運動移動	d415姿勢の保持
		d450歩行
		d455移動
	セルフケア	d510自分の身体を洗うこと
		d520身体各部の手入れ
		d530排泄
		d540更衣
		d550食べること
		d560飲むこと
	家事	d630調理
		d640調理以外の家事
	家庭用品の管理及び他者への援助	d650家庭用品の管理
	d660他者への援助	
特別な対人関係	d760家族関係	
	d770親密な関係	
経済生活	d860基本的な経済的取引	
	d865複雑な経済的取引	
E 環境因子	支援と関係	e310家族
		e315親族
		e320友人
		e325知人・仲間・同僚・隣人
	態度	e410家族の態度
		e415親族の態度
		e420友人の態度
	e425知人・仲間・同僚・隣人の態度	

ICFを用いた病態評価

- 疾患の病態をICFの心身機能、身体構造を用いて記載できそう
- ICDの全てを記載していくのは辛い
- ICPC-2なら診断名は約300

研究のシエーマ

糖尿病



合併症のリンク作成

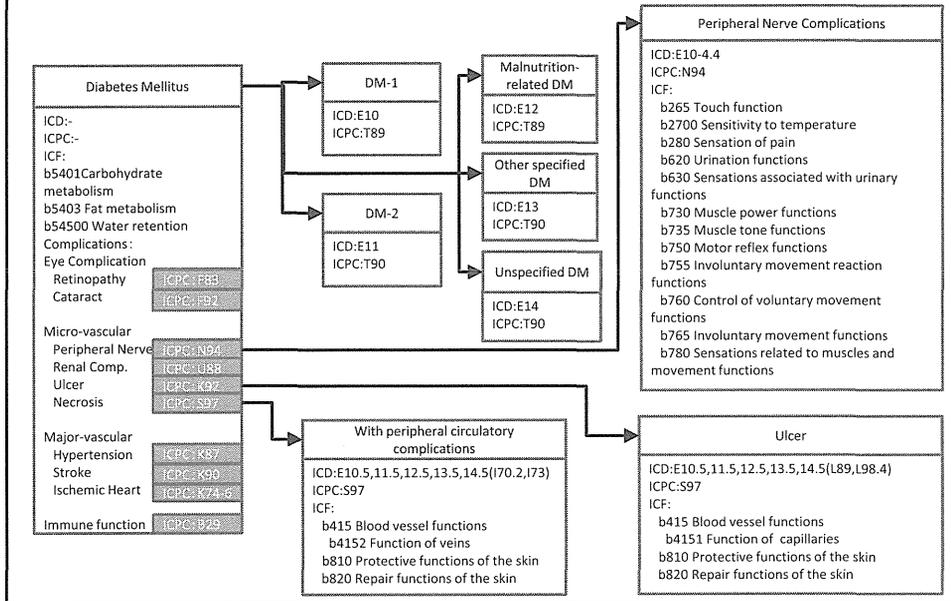


ICPC2とICFでの記載



パスへの展開:評価

Diabetes Mellitus with ICF and ICPC-2



糖尿病の評価

- b540代謝
 - b5400基礎代謝率
 - 身長
 - 体重
 - 代謝率
 - b5401炭水化物代謝
 - FBS (空腹時血糖)
 - HbA1c
 - グリコアルブミン
 - b5403脂肪代謝
 - LDL
 - HDL
- b410心機能
 - 心電図
 - 胸部Xp
- b415血管の機能
 - b4150動脈の機能
 - 足背動脈
 - b4151毛細血管の機能
 - 眼底検査
- b420血圧
 - 上肢の血圧
 - 下肢の血圧
- b435免疫系の機能
 - 易感染性(感染症罹患頻度)
 - 白癬菌感染
 - 歯周病
- b545水分・ミネラル・電解質バランスの機能
 - 尿中アルブミン
 - 血中クレアチニン
 - クレアチニンクリアランス
 - 足関節浮腫
- 末梢神経
 - b265触覚
 - b270温度やその他の刺激に関連した感覚機能
 - 診察
- b210視覚機能
 - s2201角膜
 - スリット
 - s2203網膜
 - 視力検査
 - 眼底検査

疾患名	合併症	発生形式	凶害(症状)	ICF	2008/7/3	2008/9/25	2008/12/18	2009/3/12	2009/6/7	
慢性合併症	細血管障害	糖尿病性非増殖性網膜症		b4103	2	2	2	2	2	
		糖尿病性増殖性網膜症		s2203	0	0	0	0	0	
				s2204	1	1	1	1	2	
		糖尿病性腎症	視力低下		b2100	1	1	1	1	2
			眩暈が見える		b2102	0	0	0	0	0
			飛蚊症		b2103	0	1	1	1	1
		ニューロパシー	アルブミン尿		b610	0	0	0	0	0
			高血圧		b6100	0	0	0	0	0
			尿蛋白性アンダーシス		b4200	0	0	0	0	0
		自律神経ニューロパシー	しびれ		b545	0	0	0	0	0
			痛み		b2801	0	0	0	0	0
			腱反射減弱		b2801	0	0	0	0	0
			肢覚鈍麻		b750	0	0	0	0	0
			温度覚鈍麻		b265	0	0	0	0	0
					b2700	0	0	0	0	0
					b2700	2	2	2	2	2
			安静時頻脈		b4100	0	0	0	0	0
			起立性低血圧		b4202	0	0	0	0	0
			脱臼		b620	0	0	0	0	0
		失禁		b6202	0	0	0	0	0	
		胃不全麻痺			1	0	0	1	0	
		大血管障害	悪心		b5350	1	0	0	0	0
			嘔吐		b5108	0	0	0	0	0
			腹痛		b5352	0	0	0	1	0
			夜間下痢		b525	0	0	0	0	0
			便秘		b525	2	2	2	2	2
			上肢多汗症		b830	0	0	0	0	0
			下肢無汗症		b830	0	0	0	0	0
			皮膚乾燥		b830	0	0	0	0	0
			勃起障害		b6401	0	0	0	0	0
			性欲減退		b6400	0	0	0	0	0
		性交疼痛症		b6700	0	0	0	0	0	
		閉門舌根痙攣		b820	0	0	0	0	0	
		皮膚潰瘍		b810	0	0	0	0	0	
		免疫障害		b4101	3	3	3	3	3	
	虚血性心疾患			2	2	2	2	2		
		胸痛		b28011	0	0	1	0	0	
		運動耐容低下		b455	2	2	2	2	2	
		心機能低下		b410	0	0	0	0	0	
		動脈硬化		b415	3	3	3	3	3	
		高血圧		b4200	2	2	2	2	2	
		下肢壊疽		b415	0	0	0	0	0	
	免疫障害			b435	0	0	0	0	0	

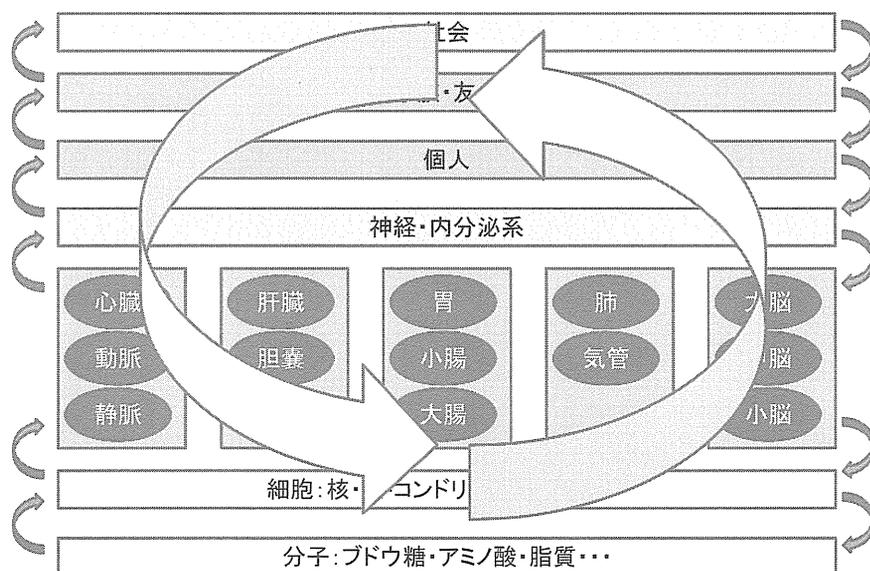
虚血性心疾患の評価

- b540代謝
 - b5400基礎代謝率
 - 身長
 - 体重
 - 代謝率
 - b5401炭水化物代謝
 - FBS(空腹時血糖)
 - b5403脂肪代謝
 - LDL
 - HDL
- b410心機能
 - 心電図
 - 胸部Xp
 - 心Echo
 - 負荷心電図
- b415血管の機能
 - b4150動脈の機能
 - 足背動脈
 - 動脈Echo
 - ABI
 - b4151毛細血管の機能
 - 眼底検査
- b420血圧
 - 上肢の血圧
 - 下肢の血圧
 - 日内血圧変動
- b545水分・ミネラル・電解質バランスの機能
 - 尿中アルブミン
 - 血中クレアチニン
 - クレアチニンクリアランス
 - 足関節浮腫
- b210視覚機能
 - s2201角膜
 - スリット
 - s2203網膜
 - 視力検査
 - 眼底検査

これらの研究から得られるもの

- 疾病の病態を共通書式で記載
 - 下肢神経障害のある2型糖尿病
 - 尿中アルブミン陽性の2型糖尿病
- 治療方針の違いを分析可能となる
 - 現在の病態より悪化するまでを測定可能
 - 尿中アルブミン陽性から透析までの時間比較
- 今後の課題
 - 多変量の時系列解析
 - より多くの疾病への対応

Angelのヒエラルキーモデル



結語 : ICF Power!

- ICF は個人の生活状況を記載できる
- 日常生活 (ICF:d&e) と疾病 (ICF:b&s) の関連が重要
- ICF で記載したものを地域単位で集積すれば地域の健康状態を表現できる
- 共同研究者募集中！
fujitan@faculty.chiba-u.jpまで

Disease evaluation table with ICF

	ICPC2Tytle	Included	Related ICD10	ICF	ICF Tytle	
D70	GASTROINTESTINAL INFECTION	gastrointestinal infection/dysentery with specified organisms including campylobacter, giardia, salmonella, shigella, typhoid, cholera	A00, A01, A02, A03, A04, A05, A06, A07, A08, A09	b515	digestive functions	
				b520	assimilation functions	
				b525	defecation functions	下痢
				b530	weight maintenance functions	
				b289	sensation of pain, other specified and	腹痛
				b545	water, mineral and electrolyte balance functions	脱水
				b550	thermoregulatory functions	発熱
D71	MUMPS	mumps meningitis/orchitis/pancreatitis	B26	b550	thermoregulatory functions	発熱
				b510	ingestion functions	
				b289	sensation of pain, other specified and	嚙下痛
				s510	structure of salivary glands	耳下腺腫脹
				s710	structure of head and neck region	頸部リンパ節腫脹
				s630	structure of reproductive system	精巣炎・卵巣炎
				b230	hearing functions	難聴
				b235	vestibular functions	めまい
				s550	structure of pancreas	膵炎
D72	VIRAL HEPATITIS	all hepatitis presumed viral, chronic active hepatitis	B15, B16, B17, B18, B19	s560	structure of liver	肝炎
				b455	exercise tolerance functions	全身倦怠
				b515	digestive functions	
				b520	assimilation functions	肝機能障害
D73	GASTROENTERITIS PRESUMED INFECTION	diarrhoea/vomiting presumed to be infective, dysentery NOS, food poisoning, gastric flu	A09	b455	exercise tolerance functions	全身倦怠
				b515	digestive functions	下痢・嘔吐
				b520	assimilation functions	肝機能障害
				b550	thermoregulatory functions	発熱
				b510	ingestion functions	嘔気
				b545	water, mineral and electrolyte balance functions	脱水
				b530	weight maintenance functions	
				b289	sensation of pain, other specified and	腹痛
D74	MALIGNANT NEOPLASM STOMACH	carcinoma stomach	C16	s530	structure of stomach	胃がん
				b455	exercise tolerance functions	全身倦怠
				b530	weight maintenance functions	
				b289	sensation of pain, other specified and	腹痛